

リーディングパーソンに訊く。

〈損害保険・アクチュアリー編〉

保険料自由化、海外進出、会計基準の変化から 損害保険会社で高まるアクチュアリーへのニーズ

東出 純

(ひがして・じゅん)

三井住友海上火災保険株式会社
自動車保険部 料率企画チーム長
日本アクチュアリー会正会員

1991年に東京大学農学部を卒業後、東京大学大学院農学系研究科修士課程に進み、93年に修了。稲の遺伝パターンによる倒伏度の分析、木の肌模様に対して人間が抱く印象について画像解析を用いた研究などを行う。損害保険アクチュアリーとして、後進の育成にも力を注ぎ、日本アクチュアリー会で損保数理の科目を新設する際には、立ち上げメンバーとして教科書の作成などにかかわっている。著書として『例題で学ぶ損害保険数理』（共立出版）がある。

したことだ。

三井住友海上火災保険株式会社の東出純氏は、そんな大きな二つの荒波にさらされながら、アクチュアリーとして自動車保険の商品開発を10年以上担当した人物。また、ブラジル、インド、タイ、シンガポールなどの同社海外拠点の自動車保険の料率算出業務も支援してきている。

日本アクチュアリー会では損保数理の新設メンバーとして教科書の作成にかかわり、『例題で学ぶ損害保険数理』などの著書も著している東出氏に、損害保険アクチュアリーの展望について話を聞いた。

損害保険アクチュアリーが注目される理由について教えてください。

損害保険業界は90年代後半に大きな変化が訪れました。業界一律の算定会料率の時代から、各社の創意工夫で料率を設定する「自由化」の時代になったのです。正直なところ、損害保険会社ではそれ以前はアクチュアリーの活躍できる領域は限定されていたのですが、それが一気に各社が保険料率の理論値をギリギリと考えなくてはならなくなりました。他社との競争もありますから、マーケティングのことも考えて料率設定をしなければいけません。アクチュアリーへの需要が急激に高まってきたのです。

損保アクチュアリーが注目される背景として、もう一つ「国際化」というキーワードが挙げられます。2000年代の中盤から、国内事業だけでは市場全体が縮小してしまいうため、損害保険各社が海外に

弁護士や公認会計士などと同じく、職種名≒資格名でもあるアクチュアリー。高度な数学の力が求められ、資格取得まで10年以上掛かる人もいるという難関を潜り抜けた末に就ける仕事だ。務まる人が少ない分、損害保険会社のビジネスに欠かせない存在でもある。各業界・各職種の展望を、それぞれの業界・職種を代表するリーディングパーソンに聞く本企画。今回は損害保険会社で、商品開発、保険料率の設定、経理、リスク管理などの仕事に携わるアクチュアリーを取り上げたい。

保険料自由化と2大会社の合併という荒波を乗り越えた三井住友海上の東出氏に話を聞く

損害保険業界の歴史を振り返ると、10年ほど前に大きな出来事が二つあった。一つは金融ビッグバンによる保険料の自由化、そしてもう一つが業界3位の座を争っていた三井海上火災と住友海上火災の2社が合併



収益を求めて事業展開するようになってきました。すると、競争が激しい国、データがない国といった現地のさまざまな事情に応じて、保険料率を自社で考えなくてはなりません。各海外拠点からアクチュアリーが必要とされるようになってきているのです。

3点目として、国際会計基準（IFRS）導入の機運が高まっていることもアクチュアリーのニーズを後押ししています。さらに保険業界では同時に、ヨーロッパのソルベンシーIIの導入検討に代表されるように、ソルベンシー規制の見直しの動きも出てきています。

IFRS、ソルベンシー規制のいずれにおいても、資産・負債の時価評価、特に負債の時価評価における、統計的モデルの活用が論点の一つになっています。実績データからモデルを立て、将来予測をする「負債の時価評価」はまさにアクチュアリーの役割。会社の中でアクチュアリーが自社のリスクを評価する仕組みを作らないといけなくなっており、非常にニーズが高まっています。

損保アクチュアリーには

どんな能力が求められるのでしょうか？

損害保険のアクチュアリーには、スペシャリストであることに加えて、ゼネラリストの目線も求められます。

保険金データを分析するには、定量的な分析の前に、まず、そのデータがどのような背景の中で造成されたのか、定性的な観点でも把握することが必要となります。数理のことに加え、保険商品のこと、実務のこと、マーケットのこと、社内システムのこと。さま

ざまな分野について知っておかないといけません。

自由化、国際化、会計基準の変化という三つの観点からアクチュアリーが必要とされていると話しましたが、そういう変化に対応するための仕事というのは、今までの枠組みではありません。保険の実務を理解して、かつ数理の知識もある人が担当しないと難しいでしょう。

損保アクチュアリーとして活躍するにはどんな心構えが必要ですか？

まずはアクチュアリーの資格試験に、早い段階で合格しておくことでしょう。過去を振り返ってみると、たまたま私は試験に合格したタイミングで、運良く社内アクチュアリーの仕事が増えました。資格を取ったばかりの私にも仕事が任せましたが、資格を持っていなかったら任せられなかったでしょう。

また、アクチュアリーに限らないかもしれませんが、日常の目の前にある仕事を地道にこなし、信用を積み上げることが重要だと思います。信用は次の仕事の機会につながります。

若いときには、自分のやりたい「アクチュアリー業務」以外の仕事を頼まれると「やりたくないな」と思うかもしれません。でも、選り好みせず、大らかに構えているんな仕事を積み重ねていけば、「やりたい仕事」を任せられる機会に恵まれてくるものだと思います。私の場合、海外の自動車保険の料率見直しは、自ら求めて作った仕事ではなく、周りから機会をいただいた仕事でした。最初はシンガポールの保険料見直し

を頼まれたのですが、それほど大きなマーケットではありませんし、日常業務と直接縁のない海外での仕事でしたから、社内でも手を上げて引き受けようとしませんでした。だったら、「私でよろしければお手伝いします」と。シンガポールは好きですし（笑）。やってみたら現地の方にも喜んでいただき、運良く成果も出た。すると次は「ちょっとブラジルに行ってくれないか」と、色々な国の仕事をいただくようになりました。

仕事の将来性というものは分からないものです。若いうちは、難しいことを考えないで、とにかくやってみるという姿勢が大事なんじゃないかなと、自分自身の反省も踏まえて、そう思いますね。

理系ナビ読者に向けて、メッセージをお願いします。

損保は生保と比べて未完成の部分があります。そこにアクチュアリーが乗り込んでいって、整備していくことが求められています。自ら未完成のフィールドに入って、立ち上げるといふ楽しさが味わえるはずですよ。損保アクチュアリーとして働くことの魅力の一つはそれでしょう。

また、海外事業や国際会計基準と業務のフィールドは広がっています。損保会社において、アクチュアリーに求められる仕事は非常に増えていると。ですから、ぜひ理系の学生さんにも飛び込んでほしいですね。アクチュアリーという専門性を軸としながらバリエーションを取った仕事ができる人になってほしいです。